

学会通信

第10号

会員の皆さまへ

理事長 米山文明

桜の便りも届く頃、皆様ご清祥にご活躍のこととお慶び申し上げます。

学会通信10号をお届けいたします。この試みも発足以来5年目になりますが、皆様いかにお感じでしょうか。賛否両論が出たり、各種の議論、新しいアイデアなども期待したのですが、まだ何となく一方通行の感があります。

年1回の学会誌のようにオーソドックスで学問的な論文ばかりでなく、付属的な関連情報、会員の個人情報（演奏会、出版、講演など）、学会の用語、述語の解説などをおもいつくままに送信してきました。

皆様もどうぞ気軽に、積極的にご利用ください。会員の活動範囲であればどんなジャンルでもけっこうです。

学会活動としましては、懸案のホームページも池田京子理事のご努力で漸く軌道に乗り始めてきました。先日、ウィーンで活躍中の某声楽家から初めて年賀状をいただき驚きましたが、学会のホームページを見て私の近況を知ったと書いてありました。ホームページが未知の方々に、学会や会員の皆様の活動を知ってもらうためにかなり役立つことを知らされました。皆様もどうぞ有効にご利用ください。

学会各部門の活動も順調に進んでおります。昨年8月の研修会も盛会裡に終わり、11月例会も研究に対する活発な討論と、ベルカントに

関する興味深い特別講演、佐藤美枝子さんの素晴らしい演奏で大盛況でした。おかげさまで例会参加者も増え、100名を大幅に越えました。会員増加は学会発展の重要な基礎ですから、今後の発展のため執行部もさらに気を引き締めて努力してゆく所存です。

各部門の活動としましては、教育部門では11月例会前日に第3回目の全国研究会を開き、今後の行動の具体策を練り、的を絞って進行しつつあります。

この部門では一つ大きな事項が発生しました。学習指導要領の改訂に関する第三期中教審の審議の中で、一部委員から音楽、美術の科目を義務教育の必須からはずし、選択にすべしとの意見が出て、現在音楽、美術関連諸学会、団体で大きな波紋を呼んでいます。

本学会も佐々木正利理事からの提案を理事会で決め、音楽教育学会その他の学会と協調して文部科学省に要望書を提出しました。小川昌文理事も「教育音楽」1月号に緊急提言をされております。

演奏部門も張り切っておられ、今年は6月に学会主催のコンサートを行う予定です。理事会の決定を経て、末芳枝理事が目下具体的詳細を立案、進行中です。

理論部門も研究発表が多くなりつつありますので、演奏発表、体験発表いずれでも皆様積極的にご参加ください。例会前日の臨床音声研究会も参加人数、発表症例ともに増加して、活気にあふれています。将来は例会を2日間にしてはどうかという案さえ出始めております。

40年誌も清水編集委員長と各委員を中心に、学会OBにも原稿をお願いして順調に進んでおります。

以上が現況ですが、まだ積み残しの案件もいくつかあります。少しずつでも着実に学会の発展を進めてゆきたいと努力しております。会員の皆様のご健康とご活躍を祈念するとともに、学会へのご指導、ご鞭撻を重ねてお願いいたします。

【Q&A】

第82回例会で研究発表の「声の音響分析による比較検討」（その1）（大蔵康義・河合孝夫）の後で質疑応答が行われました。その中で「倍音」の定義について会員相互の認識の差から若干の混乱があったので、学会の用語統一のこともあり、一言付言したい。

現在の音響学会、音楽学会などで決められている定義を以下に示す。以後これらに準じて討論されたい。

①ある音を楽器で奏するとその音の整数倍の振動数の音が同時に発生する。これを倍音（harmonic overtone）という。この最初に奏した音を基音（fundamental tone）といい、それ以外に派生する音をその倍数にしたがって第2倍音、第3倍音…という（音楽之友社、楽典）。

②すべての音をフーリエ解析すると必ず純音と複合音に分解される。そして複合音は基音と上音（部分音）に分けられる。基本周波数が最小のものを基音または原音といい、そのほかのものを上音（部分音）という（P. ラディフォギット「音響音声学」佐久間章訳 大修館）。この上音を分類すると一般に基音、第1上音、第2上音…といい、上音が倍音の場合は基音、第2倍音（第1上音）、第3倍音（第2上音）となる（小幡重一「音」岩波新書）。

③古い音響学書には基音の2倍を第1倍音、3倍を第2倍音とあるがこれは誤り。この場合、「倍」ではなく「陪」なら正しい。つまり基音の2倍を第1陪音、3倍を第2陪音なら正しい。

【海外だより】

アメリカでの研修から

虫明眞砂子

今般、学会誌第34号に文部科学省在外研究での米国研修の体験の一部を投稿させていただきます。

10ヶ月ではありましたが、米国での体験は、帰国後、私に発声の意識の変化をもたらしてくれたように思います。

この数年、学校教育の場では、民俗音楽や日本音楽が小中学校の音楽授業で大きく取り上げられるようになりました。また、曲種に応じた発声の導入に伴って、以前よりも発声の位置づけが曖昧になってきたように思われます。教師は発声に対する関心が薄れてきたようにも思えます。

今回、米国で触れた子どもたちの声や合唱は、歌唱芸術の原点とは何かを考えさせてくれる大きなきっかけとなりました。そして、歌唱とは声をどのように無理なく美しく発することができるかにあるということが再確認できました。

米国の教員からは決して「大きな声で歌いなさい」という言葉かけはありませんでした。3年生と5年生であった私の子どもたちは、当初、米国の子どもたちの歌は下手だよとよく言っていました。日本の音楽授業の時間で歌っている声の方がずっと大きくてすごいよと。

米国の子どもたちは、実際に、声は小さく、か細く、身体を使って響かせようとした声ではありませんでした。しかし、約1年を経過すると、私の子どもたちもハンドサインで音程をとりながら、楽しそうに歌を歌うようになっていました。「コダーイメソッド」の勉強は、ソルフェージュカの向上と共に年令に合わせた無理のない声づくりに有効と考えられます。大学院等で学生と研究し、近いうちにハンガリーにも行きたいと思っています。

米国の教員養成機関に当る音楽教育学科では、大学のカリキュラムの中で、コダーイメソッドをしっかりと勉強していて、子どもの歌唱指導法の時間には、まず、発声器官についての学習が当然のごとく行われておりました。教員養成学部のカリキュラムを再考することも必要です。大学院のクラスで春のセメスターに学んだ子どもの合唱指導の方法を分析して、今後の授業や声楽カリキュラムの参考にしたいと思っています。

（岡山大学）

◆日本声楽発声学会コンサート◆

—日本の歌とアリアの夕べ—

日 時 2006年6月14日(水) 19時開演
 会 場 文京シビックホール(小ホール)
 地下鉄:後楽園駅(丸の内線・南北線)下車
 春日駅(大江戸線・都営三田線)下車
 出演者 安陪恵美子 伊藤美佐子 亀本しをり
 杉本乃富子 高橋 真理 宮崎 歩
 宮本 智子 吉村 敏秀 渡辺とも子
 曲 目 橋本國彦:お菓子和娘
 中田喜直:木菟 桐の花 たんぽぽ
 サルビア 「六つの子供の
 歌」より
 別宮貞雄:さくら横丁
 高田三郎:「パリの旅情」より 市の花
 屋 すずらんの祭
 プッチーニ:「トゥーランドット」より
 氷のような姫君の心も
 團伊玖磨:「夕鶴」より 与ひょう、あ
 たしの大事な与ひょう
 小林秀雄:「演奏会用アリア」より
 すてきな春に 他
 入場料 3,000円

◎第42回総会および第83回例会

と き 5月28日(日) 10時~16時30分

と ころ 東京芸術大学音楽学部第6ホール

内 容

- ・研究発表 飯田忠文「支えについて」 他
- ・総 会
- ・特別講演 演奏と公開レッスン(予定)

ラルフ・デーリング

[プロフィール]

ドイツを代表するバリトンの名歌手。ライブ
 ツィッヒ国立音大を最優秀で卒業後、オペラ、
 オラトリオ、リート歌手として世界的な活躍
 をする一方、ドイツ、オーストリーの大学教

授を歴任、1990年よりウィーン国立音大教授と
 して多くの一流歌手を育てている。

- ・現役声楽家の演奏とお話

坂本知亜紀(ソプラノ)

[プロフィール]

東京芸術大学博士後期課程単位取得。日比啓子、
 後藤寿子、三林輝夫各氏に師事。1994年フラン
 ス音楽コンクール第1位およびフランス大使賞
 受賞。1996年日仏音楽コンクール第1位。日本
 音楽コンクール第2位。1996年渡仏。パリ国際
 声楽コンクールにおいて、日本人初のグランプ
 リを獲得したほか国際コンクールでの受賞多数。
 2004年から日本での活動を再開している。

ラルフ・デーリング教授の
 公開レッスン生を募集します!!

なるべく男声の方。ご希望の方は3月末日まで
 に事務局あて、下記についてご連絡をください(会
 員、または会員の推薦者。理事会で決定します)。

- ・お名前 ・年令 ・声種
- ・出身校または師事した先生
- ・曲目(1~2曲)できるだけドイツ語の曲
- ・連絡先 住所 TEL. FAX. (メール)
- ・レッスン謝礼は、10,000円。
- ・原則として、伴奏者同伴。

[長野支部だより]

◇第60回例会◇

日 時 3月4日(土)午後1時~4時30分

会 場 長野市城山公民館305室

内 容 講義と実習

グルック O del mio dolce ardor

平井康三郎 しぐれに寄する抒情

講師:田島達也(信州大学助教授、本学会会員)

公開レッスン(イタリア歌曲、イタリアオペラ
 アリア)

講師:田島達也(同上)

研究発表「唱法研究」②

Sento nel core 唱法と解釈

講師：飯田忠文（本学会相談役）

【お問合せ】0262-38-4136 池田研究室

【会員だより】

◆演奏会◆

◇ ハイน์リッヒ・シュッツ合唱団東京

3月17日（金）7時開演 東京カテドラル

J. S. バッハと A. ペルト

ユビキタス・バッハ共演

3月24日（金）7時開演 東京カテドラル

オルガンとア・カペラ

ドレスデン聖母教会室内合唱団を迎えて I

3月25日（土）7時開演 本郷教会礼拝堂

オルガンとカンタータ

ドレスデン聖母教会室内合唱団を迎えて II

指揮 淡野弓子

指揮・オルガン M. グリュエネルト

入場料 4,000円 3,000円 2,500円

【お問合せ】03-3970-0585 ムシカ・ポエティカ

◇ 第48回あぼろんの会

5月31日（水）3時開演

豊島区民センター（池袋） 入場無料

音楽・演技指導 丹羽勝海

出演者（本学会会員）片山 歩 斉藤立美

竹中和子 立島和恵 他

◇ 丹羽勝海・丹羽理英子ジョイントリサイタル

6月21日（水）7時開演

日本大学カザルスホール（お茶の水）

ピアノ：松井晶子 入場料：5,000円

◆CD発売◆

◇ 宮原卓也〈日本の歌を歌う〉

琵琶湖周航の歌 砂山 秋の月 荒城の月

平城山 他全12曲

ハーブ：宮原真弓

ピアノ：新井省吾・古高晋一 2,000円

◇ 丹羽勝海〈日本名歌曲を歌う〉 2月発売

◆出版◆

音楽用語辞典

（コーネリウス・リードによる解剖と分析）

コーネリウス・リード著

移川澄也訳・監修 川村大介翻訳協力

発声に関する1200語余の言葉を採り上げ、それぞれに著者の長年に亘る蘊蓄が注ぎ込まれ、音声学的に、医学的に、技術論的に、哲学・美学的に音楽史的にと多岐に亘る解説と論議がなされています。 移川澄也（会員）

出版社（有）キックオフ TEL.03-5912-3933

◎日本声楽発声学会ホームページ開設

URL：<http://www.soc.nii.ac.jp/jars2/index.html>

昨年夏、池田京子理事（本学会広報担当）、信州大学関係センターの先生方、池田研究室等の多大なご尽力によりホームページが開設できました。

「国立情報研究所」に登録し、「学協会情報発信サービス ホームページ構築サービス」の利用申請が許可されています。当面は例会や夏季研修会、研究会等の「お知らせ」を広く一般の方に広報する目的で、年に3～4回の更新予定です。

今後、皆さまのご希望ご意見を反映して、より有意義な活用が可能となりますよう、よろしくお願いたします。ご意見ご要望等を事務局内「広報委員会」あてにお送りください。

【事務局より】

◎平成18年第84回11月例会の研究発表を募集いたします。締切は5月末日です。学会誌35号、学会通信への投稿もお待ちしております。演奏会、出版、CD制作等近況についてもどうぞ事務局までお寄せください。 事務局長 川上勝功

学会通信 第10号

平成18年3月15日

日本声楽発声学会事務局

〒275-0005 習志野市新栄2-9-2 西村暁子方

TEL./FAX. 047-479-5701